

令和8年度第1回森町地域公共交通会議 議事録

日 時 令和8年6月22日(月) 14:30～

場 所 森町役場 本棟2階大会議室

出席者 別添委員会出欠名簿のとおり

概 要 以下のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

- ・長瀬副町長より挨拶。

※森町地域公共交通会議設置要綱（以下、要綱という。）第5条第2項により、会長は森町副町長が務める。

3. 報告事項

① 利用状況集計報告について

- ・ 別途資料により説明
- ・ 質疑応答なし

② 回数券の販売・利用状況

- ・ 別途資料により説明

【伊藤委員】 利用者の認知度が足りないので広報誌など色々な形で認知度を高める努力が必要だと思う。

回数券を利用することで運転手の業務も軽減されるので認知度を高める取り組みを要望します。

【事 務 局】 広報・周知を徹底してまいります。

【宮本委員】 もりっくるを利用する方たちの利用目的は何か。

【事 務 局】 買い物に行くためや通院のための利用が全体の9割を占めております。

③ 森町地域公共交通計画アップデート化事業支援業務について

- ・ 別途資料により説明

【為 国 氏】 館下さんに質問ですが、補助が少ないのではないかと。

【館下委員】 交通関係を手厚く応援すると言いながらアップデートの事業費については査定がつかない状況であり、ほかの自治体についても3割程度の補助率となっている状況です。

【事 務 局】 運輸支局からも公共交通会議の場での要望事項として機会があれば要望をお願いしたい。

④ 令和7年度決算報告について

- ・ 別途資料により説明

【伊藤委員】 事業費ではなく予備費で支出していることについてどう理解すればよいのか。

【事務局】 これまで国から町に直接補助がされておりましたが、制度が変わり交通会議を通して補助金を支給するというスタイルに変わっております。そのため、会計だけを見るとトンネルしているように見えてしまいます。実際に運行に関しての事業は町が行っており、交通会議が運行しているわけではないため、事業費として交通会議で決算するのではなく、実際に事業を行っている町へ支出していることから事業費ではなく予備費として計上させていただいている状況です。

予備費という科目が良いのかという話もあがっておりますが、規則の中に科目がすべて定められていることから、次年度までには繰出金の科目をつくるための規約改正についても検討したいと思います。

4. 議 事

① 令和8年度予算（案）の承認について

- ・ 別途資料により説明

【館下委員】 振込手数料は公共交通会議から町に振り込む際の手数料か。

【事務局】 資料3で説明させていただいた、森町地域公共交通計画アップデート化事業支援業務に係る委託料の振込手数料です。

地域公共交通会議から町に振り込む際の手数料はかかりません。

② 地域公共交通計画認定申請について

- ・ 別途資料により説明

【伊藤委員】 観光客も対象にすること、多言語化という新しい言葉がでてきたが多言語というのは韓国語・英語・中国語などのどれを指しているのか。

【事務局】 観光フィーダーについては、この度、令和8年4月に新たな補助金として新設されました。こちらは、結節点と観光地を結ぶ路線が対象となります。今回、濁川線につきましては、結節点である森駅と濁川温泉郷、駒ヶ岳赤井川線につきましては、森駅と駒ヶ岳もしくはグリーンピア大沼等を結ぶことにより、観光フィーダーとして補助申請するものです。多言語化については、事務局では世界的に標準語である英語を考えております。

【伊藤委員】 観光客を対象として地域公共交通を利用するという取り組みは、タクシー事業者的には支障はないか。

【高山委員】 現状あまり観光客が来ておらず利用も少ないため影響はあまり考えられないが、今後、もし観光客が増えてきた場合は多少なりとも影響はあると思う。

【中澤委員】 森町で働いている外国人も多少は観光することから、森町で働いている方も外国人観光客として考えた場合にはそれなりの人が利用しています。

観光客が来ることに對してはすごくいいことだと思いますし、前も言いましたが、とにかく足がなければ観光客は移動ができないので、お金の問題はありますが1～2本でも路線を走らせた方がいいと考えます。足りない部分は我々タクシー会社が補填するわけですからどうしても路線

があった方がいいと思います。

補助金の問題ありますが、運輸局が認めて乗り合いをやってくれば、足りない部分を町に負担なくデマンドか何かで運行できるのではないかと思います。2社ありますのでうまく使ってください。

【中澤委員】 この補助は、年数的に結構な年数でもらうことができるのか。

【事務局】 観光フィーダーについて、補助率等が示されていないためなんとも言えないところです。

【為 国 氏】 北海道はインバウンドが入ってきているが情報提供できていないと外国人観光客にキャッチアップできない。

また、公共交通も町民の皆さんだけで維持できればいいが実際は難しい。中澤委員のおっしゃるとおり本数を増やすだとか色々なニーズがでてきたら増やしていく検討も必要。そうすると費用もかかりますから国の補助などをどんどん活用すべき。

今年観光フィーダーが新設されたが、地域内フィーダーと同じだけ別に出るのが心配。森町の人口規模だとフィーダーの上限310万円弱ぐらいしかまだ出ない。観光フィーダーと地域内フィーダーと合わせて600万円くらい付くととてもありがたいが国の動きはどうか。

【館下委員】 現場からの声は届けており、今各自治体から上がってきた観光フィーダーをトータルしてみない予算内なのか足りないのかはまだはっきり言いづらいところです。

【高山委員】 多言語化や観光という話題が出ていますが、実習できている外国人の方や学生がもりつくるを利用している実績あるか。

【事務局】 今明確な数字は用意ないですが、事務局が把握している中では無いです。学生の利用については小学生が保護者と乗っているというのが2, 3件あるくらいです。また、最近のアンケートでは利用者の約8割が60代以上です。運行している時間帯に実習生は仕事をしている時間ですので利用することがなかなかないのかなと。

【岩橋委員】 外国人実習生の方がお休みの日に買い物やイベントのためにまとまった人数で普通列車に乗車しているという実績もあります。

【横山委員】 砂原線が無くなる前に土日に砂原線で森駅に来てそこから函館に行く方がいたという話がありました。

【中澤委員】 実態調査は必要だと思います。まず土日に走らせてみてください。数字はわかりませんが多分利用されると思います。

③ 森町地域公共交通計画アップデート化事業支援業務の業者指名について

- ・ 別途資料により説明

- ・ 異議なし。

④NPO法人まちづくり支援センター 代表理事 為国 孝敏 氏 総括

- ・事務局には技能実習生について、どこの国から来ていて、どこに出かけたいのかなど細かな実態調査をお願いしたい。
- ・多言語は英語だけでは足りない。今は台湾や韓国の人がかなり観光に来ているため、英語・中国語・韓国語等実態に合わせた多言語化の検討が必要。
- ・まだ先になるかもしれないがキャッシュレス決済の導入検討について。
今は国の補助メニューがあるのでタクシー会社にやらせるのではなく、国の補助メニューを使ってそれを提供するなど一緒に考えるとできることもあるのではないかな。
- ・ライドシェアも視野に入れた方が良いかもしれない。森町に合ったライドシェアを考えればよいと思う。

5. その他

6. 閉会